

物理学研究連絡委員会(理論物理学国際会議関係)記事

記	事
組委	番外

時 : 1952.11.2., 20.30—21.30
 所 : 京大湯川記念館
 出席者 : 小谷、有山、藤原、藤岡、伏見、今井、菊地、水内、
 小林、熊谷、三村、皆川、三宅、武蔵、野中、坂藤、
 高水、岩、友直、朝永、内田、梅田、山内
 特別出席者 : 長谷川
 (事務局 : 吉田、山越)
 配布資料 : 1.

招返	3
1952.10.27	

 2. *Organization of the Third Pan-Pacific Congress, Tokyo 1926* (資料 104 とする)

— 議 事 —

- 藤岡組織委々員長帰国報告
 出張先で連絡した関係者特に IUPAP 会長 Dr. Mott が、この国際会議を日本の科学者と親しく接触し、日本の研究の現状を見る貴重な機会として大きな関心と期待を持っていたこと、IUPAP の執行委員会を日本で開くことについては、Dr. Fraser (ICSU-UNESCO Liaison Officer) が委員会を遠隔の地で開くことの先例となつては困るという気持であるが、恐らく実現する見込であること、UNESCO の補助金は 12 月の UNESCO の総会で ICSU 全体への補助金が一括審議可決される模様であること、出版費については日本の会議の分として IUPAP から \$300 を申請していること等。
- 茅組織委々員出張連絡報告 (小谷委員代理報告)

記	事
組委	番外

各 session の座長を外人参加者に依頼すること、会議の形式、会議の名稱の中に IUPAP を "under the auspices of IUPAP" として入れること等について、U.S. National Committee の President Slater 教授の了解を得たこと、Bell Telephone Laboratory の Dr. P. W. Anderson 及び Dr. R. M. Bozorth が招請されることを望んでいたこと等。

3. 追加招請について。

ア. 補助の全然つかない招請

上記の Bozorth, Anderson の他 UNESCO の Dr. P. Auger (Director, Dept. of Natural Sciences) 及び Prof. W. Kroll (国立台湾大学) に招請を出すことに決定。

その他該当者があつた場合は委員から申出ること。

イ. 補助のつく優待招請

オノ次招請者の中、参加を断つて来た人選の代替招請に関しては、ノ2月の UNESCO の総会の結果、IUPAP からの補助金の金額がはつきりしてから改めて審議するが、専門部会において順位をつけて人選を予定しておくことを希望する。

ウ. 主催者に京大、物理学会の名前を入れることについて。

会議の正式標題を下記のように改めることを了承。

"International Conference on Theoretical Physics, Organized by the Science Council of Japan, with the Collaboration of Kyoto University and the Physical Society of Japan, under the Auspices of the International Union of Pure and Applied Physics, Financially Supported by UNESCO and the Rockefeller Foundation"

これにつき、物理学会の了解を得ておく他、京大に対しては、藤岡委員長が龜山会長の了解を得てから京大大学長に申出てその了解を求めらる。

記	事
組委	番外

5. 外人参加者の地方旅行について。

旅行日程を予め何通りか作成し、各コースに何人参加するか概略の予定人数を推定して、その資料を添えて、コースに当る各大学長に龜山会長から依頼状を出す。

地方旅行参加者数は藤岡委員長及び委員が外国学者と直接接触して来た結果、当初予想していたより多くなる見込で、たとえば広島などノ0人位は行くと考えられる。

各地方や大学の特色を概説した資料を添えて、予め参加者の希望コースについてアンケートを出し、早目に各コースの参加人員の数を把握することも必要と考えられる。これに対する地方の負担としては、観迎会等を催す他、「講演料」の形で金を出して貰って、それを本人に渡す代りに旅費等に当てて貰う方法が考えられる。